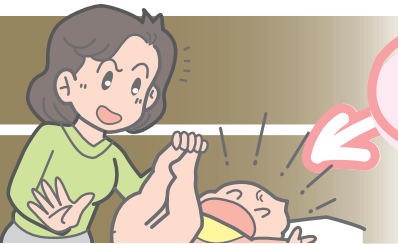




便に血がついている!!	1ページ
Road to 2020〈第6回〉女子ユースアジア選手権に帯同して／糖尿病学習会のお知らせ	2ページ
三重病院外来糖尿病教室『間食について学ぼう!』	3ページ
ふれあいまつりレポート／新人看護師研修：シミュレーション研修	4ページ
プランター花壇「にじいろガーデン」／「やまぼとギャラリー」情報コーナー／5病棟の生活のひとこま⑦	5ページ
外来からのお知らせ／外来診察のご案内	6ページ

便に血がついている!!



おむつを換える時、
便に血が付いていることは
ありませんか？

肉眼的に血が混じっている便が肛門から出てくることを「下血」と言います。もう少し詳しく言うと、胃など上部消化管からの出血による便は黒く（タール便、黒色便）狭義の「下血」といわれ、直腸や肛門など肛門に近い場所からの出血は赤い血や粘液が混じっていて鮮血便あるいは単に「血便」といわれます。広義の「下血」の原因は、鼻か、口から肛門までの消化管のどこからの出血です。



乳幼児の血便で下痢や発熱、腹痛、嘔吐など全身的な症状を伴うか、多量に出血する場合は、はやく、医療機関を受診することが必要ですが、子供さんが元気にされているのに肛門から少し血がでている場合はどうでしょう。



乳幼児の便やおしりを拭いたティッシュに血がつく原因の多くは、排便に関係した肛門付近からの出血です。その多くは、便秘が関係する裂肛と痔核です。裂肛とは固く大きくなった便が出る時に肛門が便で裂けてしまう状態です。排便時に痛がったり、泣いて真っ赤になっていきんだりすることが多く、肛門の皮膚が変形して突出する肛門垂もよくみられる所見です。痔核とは肛門付

近にある血管が腫瘤状に腫れる疾患で、排便時のいきみの圧で出血したり、その腫瘤が肛門から出てきたりします。ほかには、乳児で便に点々と赤い血がみられることがあります。この場合は、母乳やミルクなどの食餌アレルギーもありますが、正常の腸管にある小さな濾胞状のリンパ装置が増殖・腫大し、腸の表面に小さいブツブツができ、ここから出血するリンパ濾胞増殖症という状態が多いです。リンパ濾胞の増殖自体は特に心配のない状態です。さらに、便の一部や便の表面に血液や粘液の混じった血が付いている場合はポリープの可能性もあります。ポリープとは茎のある腫瘤状の病変ですが、幼小児の直腸・大腸のポリープは、おとなのポリープと違って癌にはなりません。幼小児の直腸・大腸がんはないと言ってもいいくらいです。しかし、ポリープが疑われる場合、良性でも腸重積や腹痛、多量出血の原因になることと、ポリープ以外の出血原因の可能性もあるため、内視鏡検査する必要があります。



このほかにも稀ですが精査加療を必要とする疾患もあるため、血便がみられた場合、元気でほかに症状がなくとも、緊急性はありませんが、出血原因を確認しましょう。

(小児外科 塚本 能英)

